

永代売渡申家屋敷之事

正

一本石町老町目南側從_二西角_一六軒目、裏行

町並式拾間有_レ之、我等所持之家屋鋪

壹ヶ所、此度代金五百兩_二相極、貴殿方_江

永代売渡、五人組・名主立会、右之金子不_レ殘

売主方_江不_レ殘請取申所実正也、此家屋敷_二付

從_二御公儀様_一御構無_二御座_一、拝領地・拝借

地_二も無_レ之、諸親類者不_レ及_レ申、横合方

連乱申者決_而無_二御座_一候、万一彼是申者

有_レ之候ハ、加判之者共何方迄も罷出

急度埒明可_レ申候、為_二後日_一家屋敷

永代売券証文、仍如_レ件

利左衛門

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

寛政七卯年十二月十日

利左衛門

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

天田善兵衛殿

付

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

えいだいうりわたしもうすいえやしき

② 写 永代売渡申家屋敷之事

寛政7年(1795)12月

天田家は、寛政期から文政2年(1819)にかけて、江戸での貸長屋経営を行いました。

この屋敷売渡し証文は、貸長屋業を営む土地を、箕輪村(高崎市箕郷町西明屋)の利左衛門(下田家)から購入したときのものです。

奥書によると、利左衛門が買った際は1,050両したこの家屋敷を、天田家は高浜村の幸右衛門の仲介で地面のみ500両で購入しています。長屋普請では、下水道や井戸などの付帯工事以外、大工をはじめ建築資材まで上野国から江戸へ運び込んで行ったことが関連文書から知られています。

高崎市下滝町 天田壮家文書
P08105・No.64-5



〔釈文〕

永代売渡申家屋敷之事

一本石町老町目南側從_二西角_一六軒目、裏行

町並式拾間有_レ之、我等所持之家屋鋪

壹ヶ所、此度代金五百兩_二相極、貴殿方_江

永代売渡、五人組・名主立会、右之金子不_レ殘

売主方_江不_レ殘請取申所実正也、此家屋敷_二付

從_二御公儀様_一御構無_二御座_一、拝領地・拝借

地_二も無_レ之、諸親類者不_レ及_レ申、横合方

連乱申者決_而無_二御座_一候、万一彼是申者

有_レ之候ハ、加判之者共何方迄も罷出

急度埒明可_レ申候、為_二後日_一家屋敷

永代売券証文、仍如_レ件

家屋敷

売主 利左衛門

寛政七卯年十二月十日 五人組 甚五郎

同 九左衛門

同 四郎左衛門

同 勘助

名主 伝左衛門

天田善兵衛殿

右屋敷、前々箕輪村利左衛門買候節ハ、千五拾兩_二御坐候所

此度高浜村幸右衛門世話を以、正金五百兩_二地面計_リ

買取、家作此方入_リ以、辰正月_二取掛_一、三月皆出来_二相成候

以上

(高崎市下滝町 天田壮家文書

P08105・No.64-5)